オーディオ実験室収載

IPC AM1029 の球の差し替え(2)(HP 収載)
―6L6G・6L6GA・7581A―

１．始めに

前報(1)に引き続き 6L6 ファミリーのうち、RCA の 6L6G を Reference として、他メーカーの 6L6G や 6L6GA、7581A の差し替えを行います。

２．差し替え実験の方法

試聴する再生ルートとアンプ、スピーカーは前報(1)と同様です。

球の差し替えでは今回は RCA の 6L6G を基準として、次のものを手持ちの中から選択して順次差し替えて試聴していきました。

6L6G　　RCA (Reference) ①
6L6G　　Radiotron & Cunningham(Unmatched)　②
6L6GA　 SYLVANIA　　③
7581A　　Philips ECG（6L6GC 相当軍用管）　　④

写真左より③,②,④のペアー

３．球の差し替えの試聴結果

Reference とした①RCA の 6 L6G はやや細身ですっきりと晴れやかな音がしますが、②Radiotron(L)と Cunningham(R)の不揃いの 6L6G のペアーは音は似てはいますが、幾分曇りがちですっきりと伸びきったとは言えません。

③SYLVANIA の 6L6GA はかなり Reference の①RCA の 6L6G に似た音がしますが、伸びやかさが不足してサイズも 6L6G より小ぶりのせいか、音もややこじんまりとした印象です。

④Philips ECG の 7581A(6L6GC 相当軍用管)は楽器の質感や響きもいいのですが、①RCA の 6 L6G ほど高域が伸びません。

４．まとめ

上記の 6L6 ファミリーの球は、現在は手放した、広範囲の球の差し替えが効く東方電子の日替わりメニューアンプと称するアンプで差し替えを行い、ちょっとした仕様やメーカーの違いで球の音がどれくらい違うかを調べるためのものでした。東方電子のアンプを手放した後、ずっと使い道がなかったものですが、今回購入した IPC AM1029 のスペアーとして使えることになりました。

今回聴いた中では、④Philips ECG の 7581A がネット上の評価も高く、①RCA の 6L6G に次ぐものでした。

以上